

車掌の要員適正配置と、運輸職場における 運転士から車掌への部内運用中止を求める緊急申し入れ **申2号**

本日、緊急申し入れをおこなう！！

2014年11月から、横浜支社管内において、運転士から車掌への部内運用が強行的に行われています。根本的な問題は、車掌の要員が適正に配置されていないことです。

2015年5月8日、横地申第16号の交渉が行われました。交渉の中で横浜支社は「車掌の要員について、全体的に厳しくなる見込みである」「現時点の車掌職場における要員需給の厳しさは、震災発生時の年の入社社員の減に伴うもの」「会社として、要員の減に伴い、違う職種から柔軟な異動も考え、何かしらの手立てを行っていきたい」「列車の運休はお客様に迷惑がかかるもの、必要な要員を確保し、ますます柔軟に対応していく」と回答しています。

しかし、その様な改善は見受けられず、現在も運輸職場における運転士から車掌への部内運用が行われています。

これまで、営業関係の要員需給に基づき、乗務員養成変更時期について、労使で三度実施してきました。会社は「車掌については、一定の余力を抱える状況で推移する見込みである」と回答しています。

また、本部本社における「ライフサイクルの深度化」の交渉では、車掌のフロについて「車掌については、安全レベルの維持向上を大前提としつつ、当社のサービスの一つの大きな要であるという認識に立ち、一人ひとりのモチベーションが高まり、サービスレベルが向上し、より働きがいが増すようにすることが重要である」と回答しています。当然、運転士と車掌の業務は異なり、運転士から車掌への部内運用は、この回答からも全く逆行しています。

本部は、乗務労働の特殊性を認識させ、安全輸送の確保に向け団体交渉をおこないます。

この間、職場現実を問題提起してきた！
ライフサイクルの否定である！

【要求項目】

1. 運輸職場における運転士から車掌への部内運用を即刻中止すること。
2. 本来業務に集中出来る職場環境を構築すると共に、車掌の要員適正配置を早急に行うこと。

乗務労働の特殊性を否定する運用だ！ 本来業務に集中できる職場環境を創り出そう！